

「両親からの言い伝え」を読んで

城辺中学校 1年 みやた あやか
宮田 彩花

徳島県海陽町での話です。筆者は幼少期から両親に、「寝る前には必ず枕元に服を準備して、いつでも着て逃げられるようにしておくように」と厳しく言われ続けてきました。それは、両親が昭和の南海地震を体験していたからです。突然の大地震に、筆者の両親は、着物を持ち出す余裕もなく、着の身着のまま三か月の乳飲み子と、三歳の子どもを抱きかかえ、後ろに四人の子どもを従えて必死に避難したそうです。命からがら避難し、われに返ってから、恐怖と寒さで震えが止まらなかったという両親の言葉に、私も当時の状況を想像し、思わず鳥肌が立ちました。筆者は、この話を後世に語り継ぎたいと語っています。

私は、この話を読んで、祖母の話思い出しました。祖母が幼いころ、台風で僧都川の土手が決壊し、洪水が起き家の中まで土砂が流れ込んできたことがあったそうです。その時のはっきりとした記憶はないそうですが、それ以来、母に「いつでも逃げられるように準備をしておきなさい」と言われ、それから枕元にはいつでも服をたたんで置いていたそうです。大人になって子どもができた時には、子守バンドとねんねこも準備して、いつでも子どもを連れて逃げられるようにしていたと言います。昔、この町でもそんな災害があったのか、と驚き、そして恐ろしくなりました。

私は、まだ災害を経験したことはなく、身の危険がある恐ろしい体験もしたことがありません。だからか、災害に備えた準備は完ぺきとは言えないと思います。しかし、祖母の話や、今回読んだこの話から、もっと防災意識を高く持とうと思いました。そして、過去の災害や体験者の話、貴重な教えを風化させないためにも、いつか、自分の子どもや孫にも伝えていきたいです。